

全日本空輸株式会社 2011年3月期 第2四半期決算説明会

【第1部】

代表取締役社長
伊東 信一郎
2010年10月29日



目次

I. 2011年3月期第2四半期決算～業績サマリー	P3
▪ 収支改善策ならびに計画の進捗	P4
II. 2011年3月期通期業績予想	P5
III. 2010年度下期の取り組み	P7 - 11
▪ 国際旅客事業	P7
▪ 国内旅客事業	P10
▪ 貨物事業	P11
IV. トピックス	P13-14
▪ ATI認可後のJV(Joint Venture)実施に向けて	P13
▪ LCC事業～設立に向けて	P14
V. 最後に	P15

当資料は、弊社の現在の計画、見積り、戦略、確信に基づく見通しについての記述がありますが、歴史的な事実でないものは、全て将来の業績に関わる見通しです。これらは現在入手可能な情報から得られた弊社の判断及び仮説に基づいています。弊社の主要事業である航空運送事業には、空港使用料、燃料費等、弊社の経営努力では管理不可能な公的負担コストが伴います。また、弊社が事業活動を行っている市場は状況変化が激しく、技術、需要、価格、経済環境の動向、外国為替レートの変動、その他多くの要因により急激な変化が発生する可能性があります。これらのリスクと不確実性のために、将来における弊社の業績は当資料に記述された内容と大きく異なる可能性があります。従って、弊社が設定した目標は、全て実現することを保証しているものではありません。

I. 2011年3月期第2四半期決算 ~ 業績サマリー

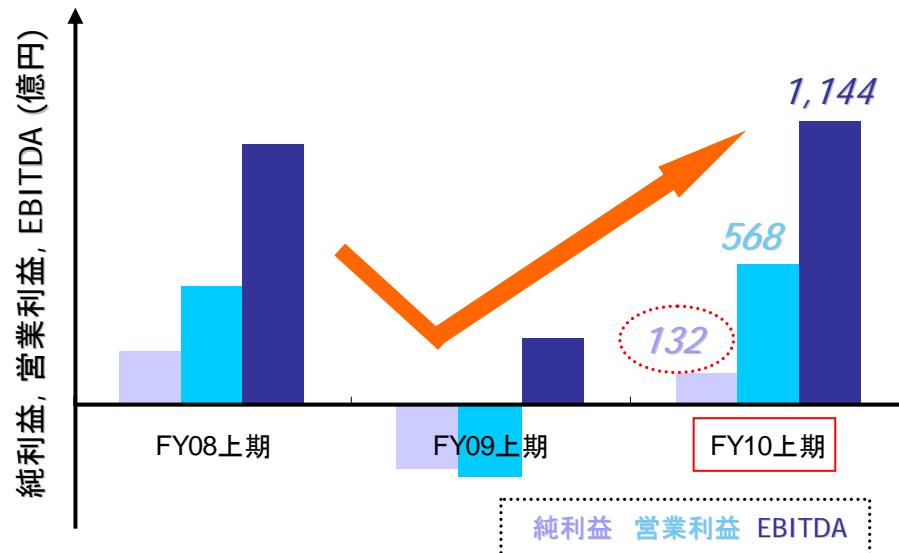
マーケティング強化による更なる需要の獲得とコスト削減が奏功し、大幅な増収増益を達成

- 2011年3月期第2四半期累計決算のポイント**
- マーケティングと競争力の強化による更なるビジネス需要と荷動きの獲得を図り、大幅な増収を達成
 - コスト改善策の着実な実行と更なる費用抑制により大幅収支改善
 - 特別損失の計上：独禁法関連引当、減損等

2011年3月期 第2四半期累計 (FY10上期) 業績

	第2四半期累計	前年差
売上高	6,841	+723
航空運送事業	6,117	+717
営業損益	568	+850
航空運送事業	514	+802
経常損益	455	+870
当期純損益	132	+386
EBITDA	1,144	+869
自己資本比率 (%)	23.3	△2.2*
DEレシオ (倍)	2.2	+0.2*

第2四半期累計(上期)業績の推移 (FY08上期-FY10上期)



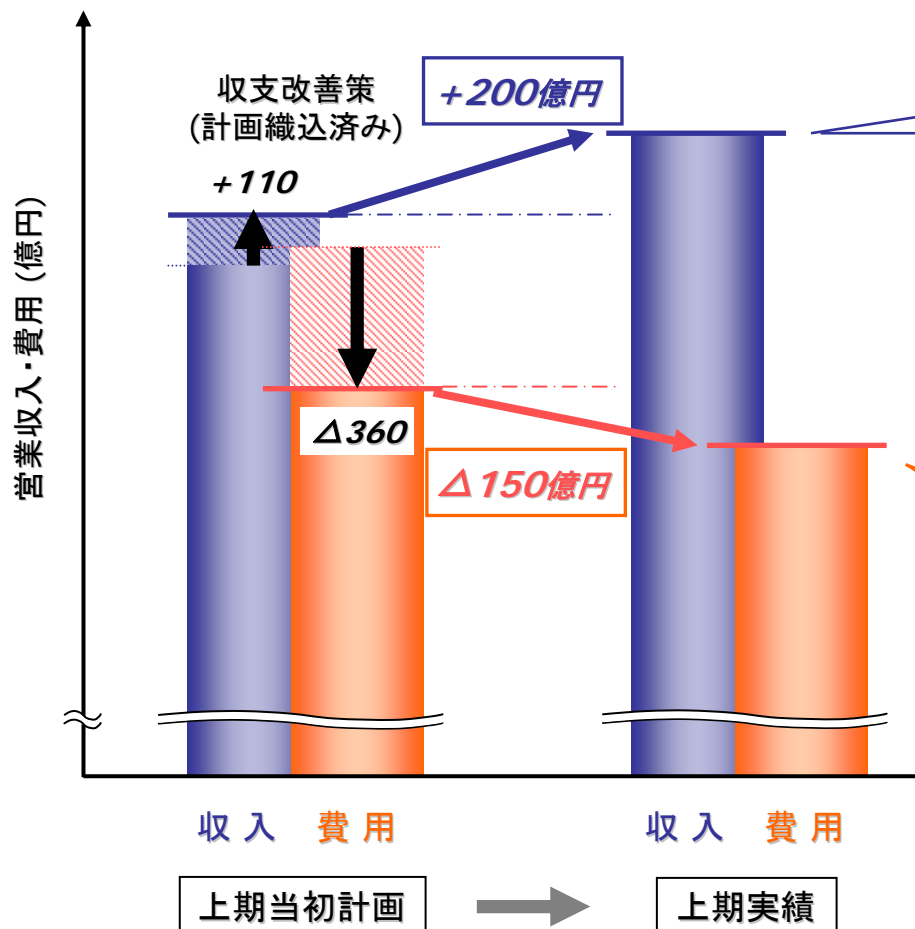
(単位: 億円)

*2010.3末差

I. 2011年3月期第2四半期決算 ~ 収支改善策ならびに計画の進捗

収支改善策の着実な実行と継続的に計画を上回る収支改善

FY10上期 当初計画と実績 (営業利益ベース)



営業収入 対計画 +200億円

- ✓ 旅客事業: **計画以上**
 - ・イールドマネジメントによるビジネス需要の獲得
 - ・競争力強化による旅客数の増加
- ✓ 貨物事業: **計画どおり**
 - ・運賃改定による単価の改善
 - ・提供トンキロを上回る回復する需要の確実な摘み取り

営業費用 対計画 Δ150億円 **計画以上**

- ✓ 『通期860億円のコスト削減策』は計画どおり進捗
- ✓ 更に計画外の費用削減を実施

II. 2011年3月期 通期業績予想

営業・経常損益は上方修正、純利益60億円以上を確保し復配を実現

- 2011年3月期通期見通し 修正のポイント**
- 下期の経済情勢、需要見通し、為替・相場的前提の修正
 - 路線計画決定に伴う修正事業計画の反映
 - 競合他社動向を受けた競争環境変化の反映
 - 特別損失項目の計上

2011年3月期 (FY10) 通期業績見通し

	通期見通し	前年差	当初差
売上高	13,770	+1,486	+170
航空運送事業	12,360	+1,481	+170
営業損益	700	+1,242	+280
航空運送事業	645	+1,220	+260
経常損益	370	+1,233	+240
当期純損益	60	+633	+10
1株あたり配当 (円)	1円	+1円	+0円

(単位: 億円)

FY10下期 為替・燃油的前提

	下期前提	
	今回	当初
米ドル (JPY/USD)	90	95
トバイ原油 (USD/BBL)	80	80
シンガポールケロシン(USD/BBL)	90	90

inspiration of Japan



ANA BUSINESS STAGGERED



III. 2010年度下期の取組み ~ 国際旅客事業

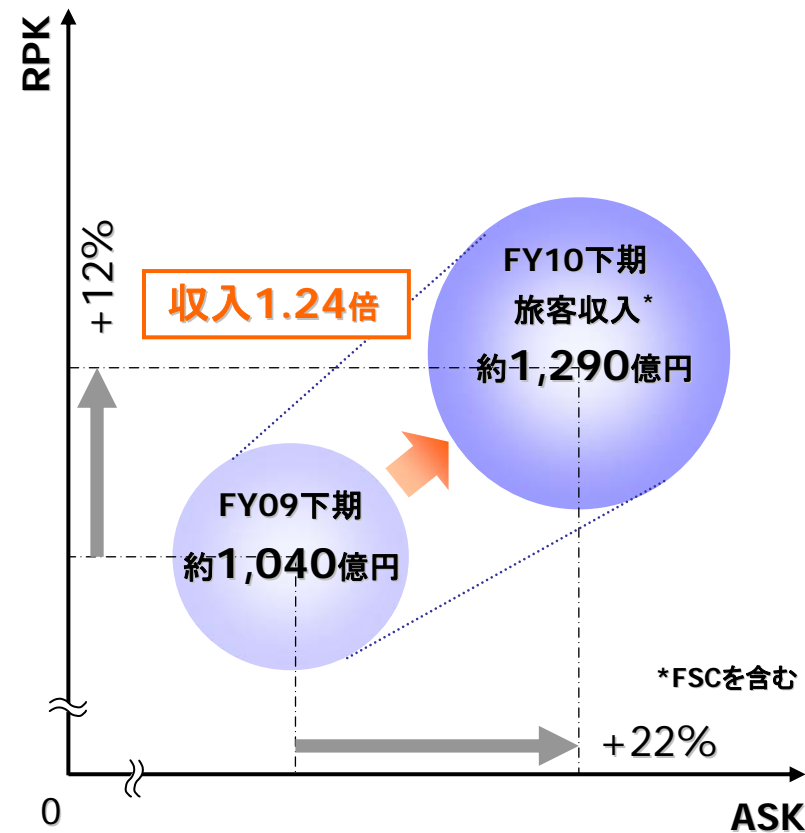
「デュアルハブ」構築により首都圏需要を積極的に獲得

FY10 国際旅客事業修正計画 (前年比)

	上期実績	下期計画	通期計画
ASK	103.3	119.4	111.3
RPK	113.1	110.6	111.8
イールド* (円)	12.9(+2.5)	11.9(+1.1)	12.4(+1.8)
L/F (%)	79.2(+6.8)	73.2(△5.8)	76.0(+0.3)

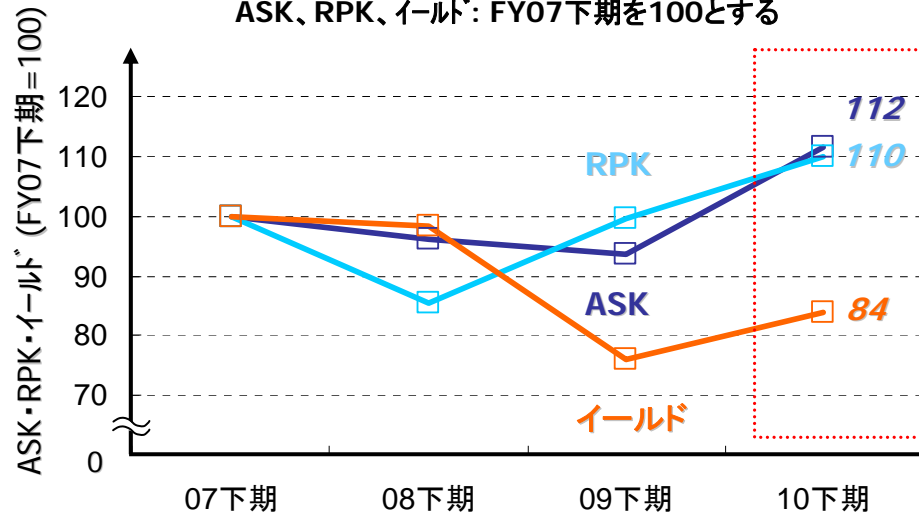
首都圏需要の更なる取込みにより1.2倍超の増収

FY10下期 羽田・成田 国際旅客収入計画*



FY10下期 国際旅客計画 ASK・RPK・イールド*

ASK、RPK、イールド*: FY07下期を100とする

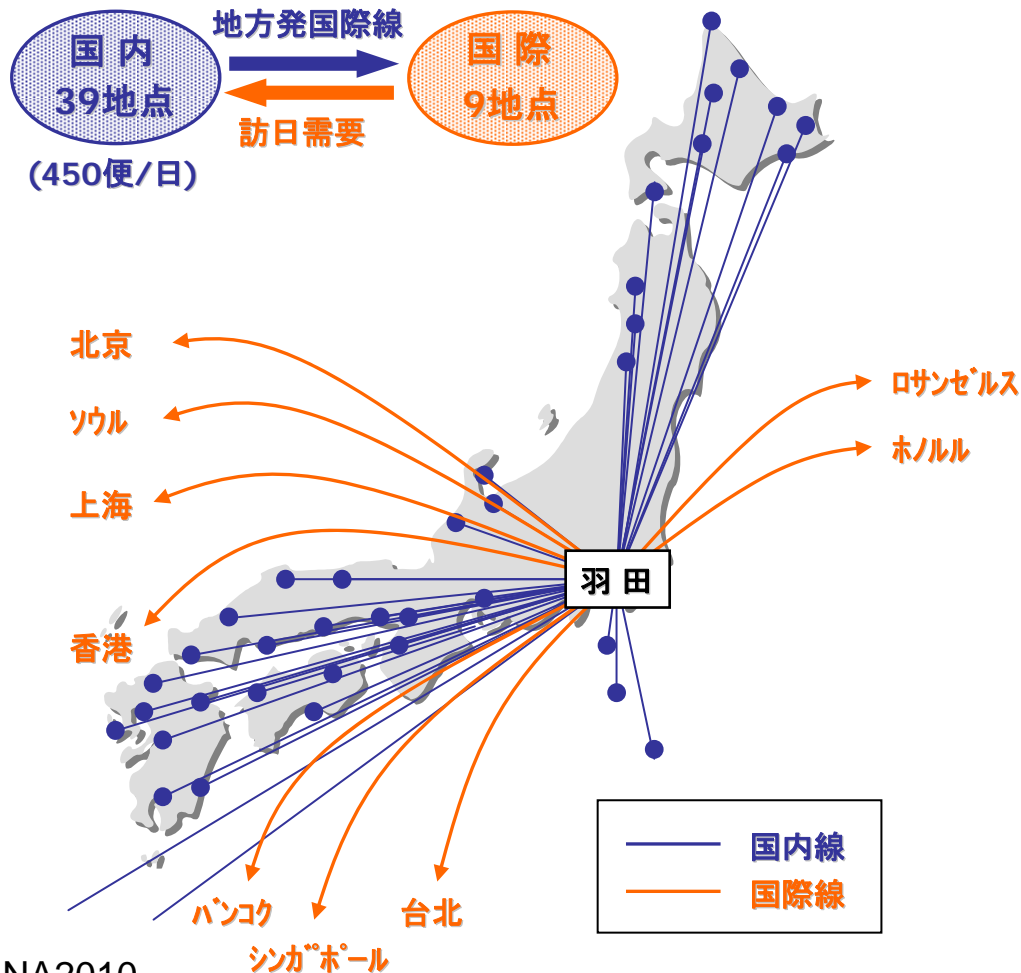


III. 2010年度下期の取組み ~ 国際旅客事業

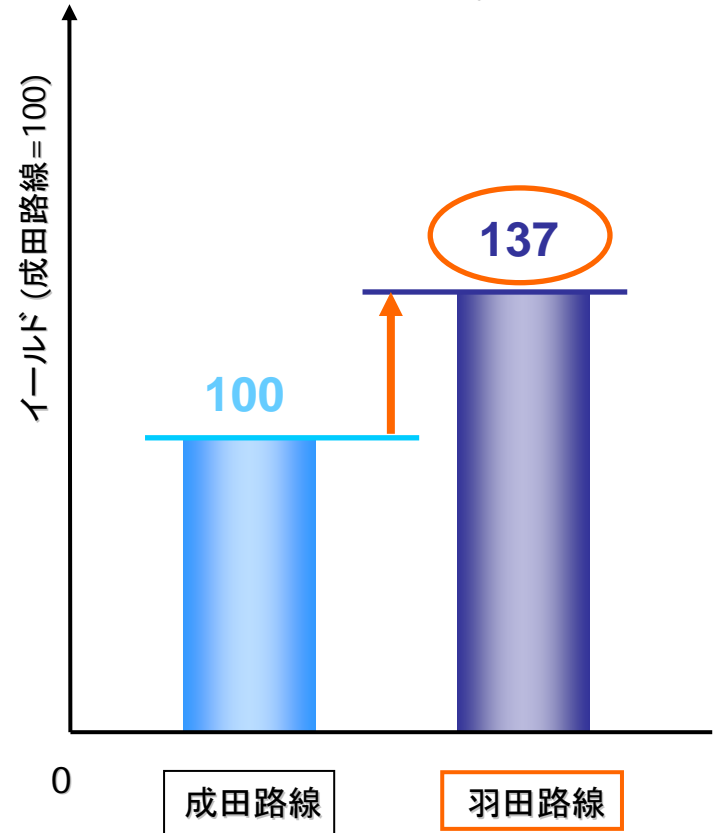
羽田発のネットワークの充実化によりキャッチメントエリアの拡大とビジネス需要の獲得

内際接続機能の画期的な充実に伴いハブ機能最大活用

利便性向上による高単価な
ビジネス需要の獲得



FY10上期 国際旅客
羽田・成田平均イールド* (ソウル・上海・北京・香港)



III. 2010年度下期の取組み ~ 国際旅客事業

下期からの足元の滑り出しは順調にスタート

羽田・成田の供給バランスをとりながら需要を獲得

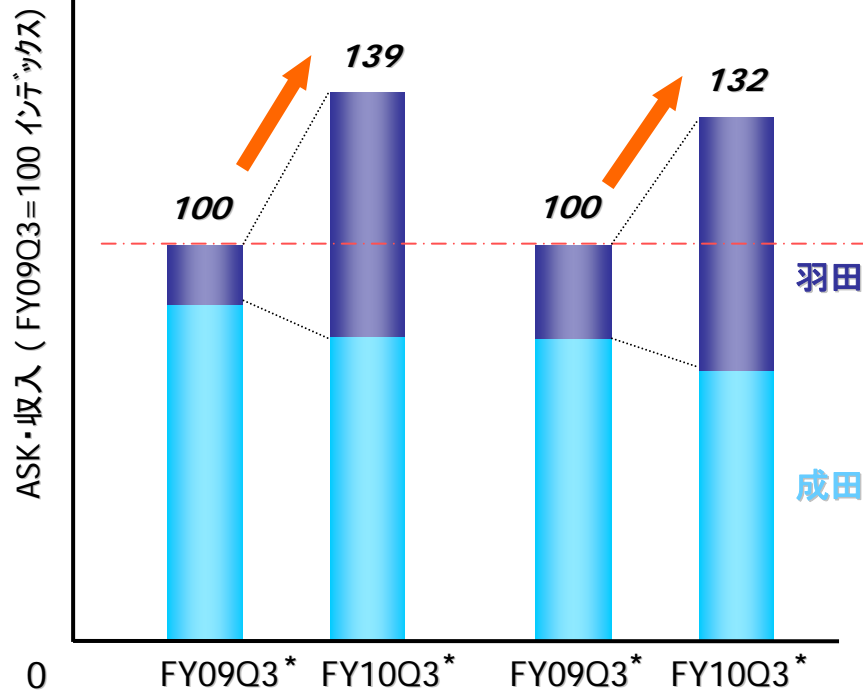
羽田・成田ともに平均L/F75%以上

10年度第3四半期(FY10Q3) (うち、2010年11月-12月 2ヶ月間)

羽田・成田 各9路線 合計ASK・収入*見通し

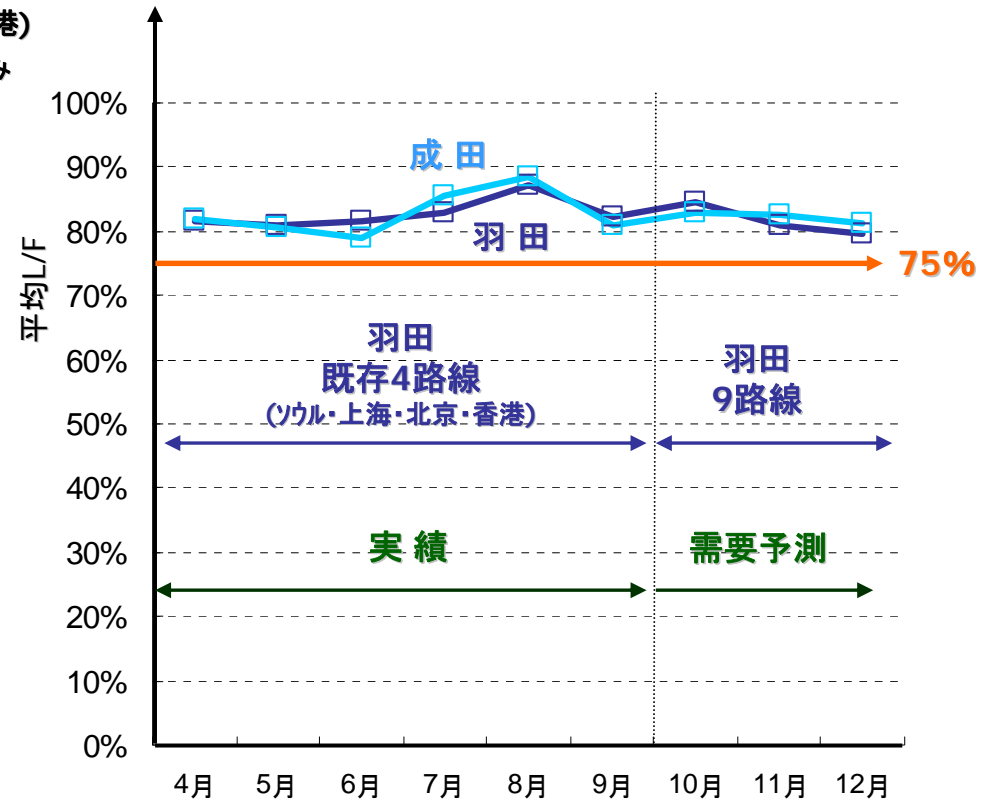
(ロサンゼルス・ホノルル・バンコク・シンガポール・台北・ソウル・上海・北京・香港)

*FSC込み



羽田・成田路線 (国際線全線) 平均L/F*見通し

*無償旅客を含む



III. 2010年度下期の取組み ~ 国内旅客事業

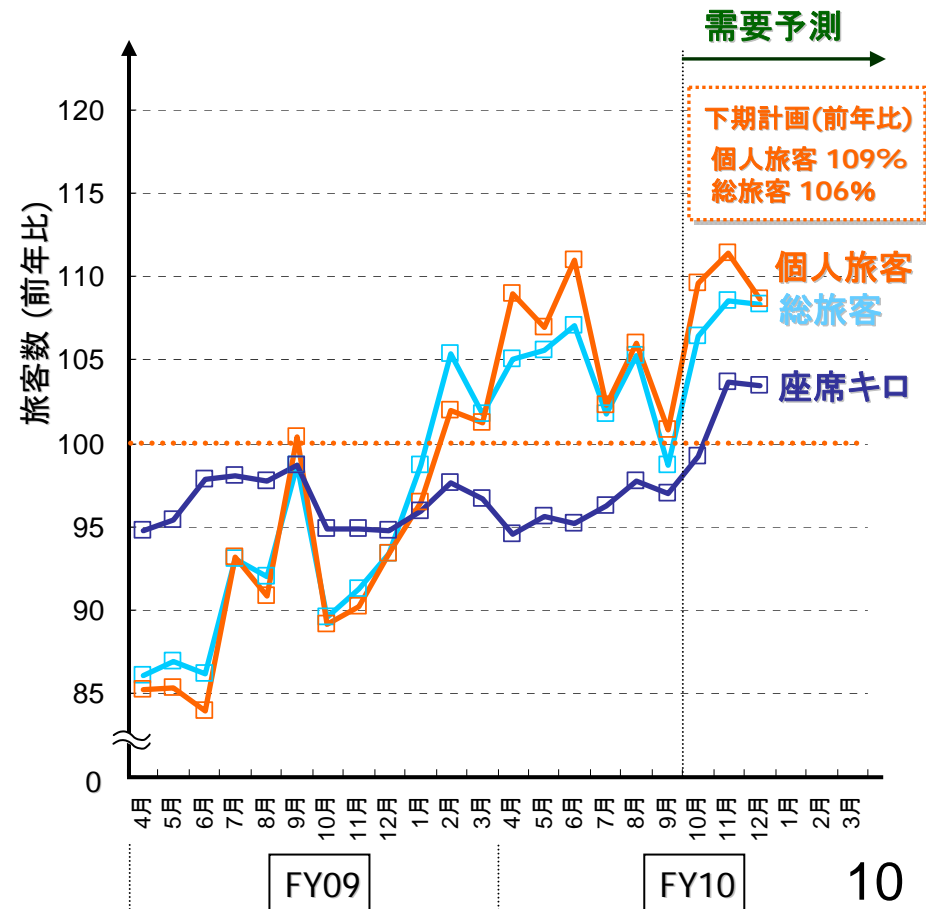
増枠を活用した羽田路線の増強と環境変化に伴う競争力向上を図り収益力を強化

FY10 国内旅客事業修正計画 (前年比)

	上期実績	下期計画	通期計画
ASK	96.1	103.0	99.4
RPK	103.7	105.6	104.7
イールド(円)	17.8(△0.2)	18.2(+0.6)	18.0(+0.2)
L/F (%)	65.6(+4.8)	64.9(+1.6)	65.3(+3.3)

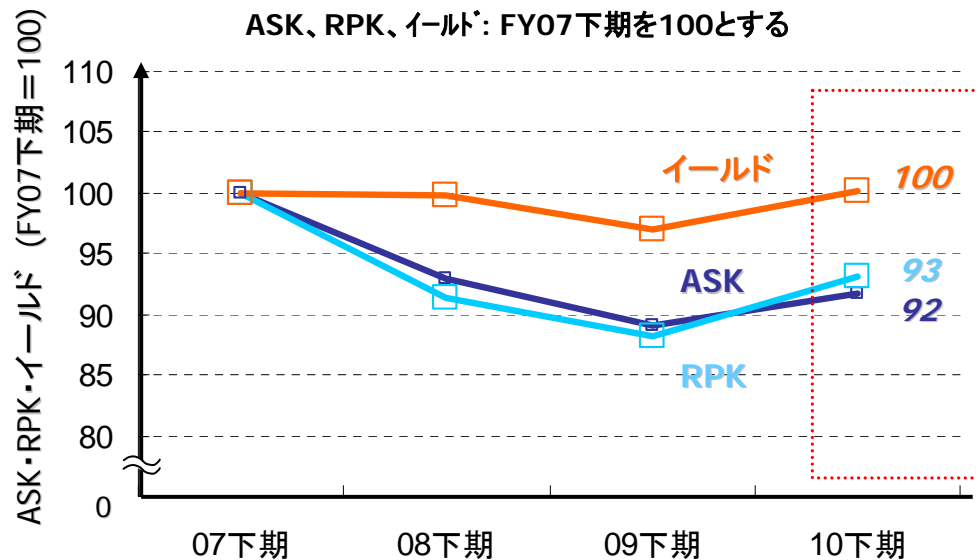
高単価旅客の伸びが引き続き全体を牽引

国内旅客 客体別旅客数 (前年比)



FY10下期 国内旅客計画 ASK・RPK・イールド

ASK、RPK、イールド: FY07下期を100とする



III. 2010年度下期の取組み ~ 貨物事業

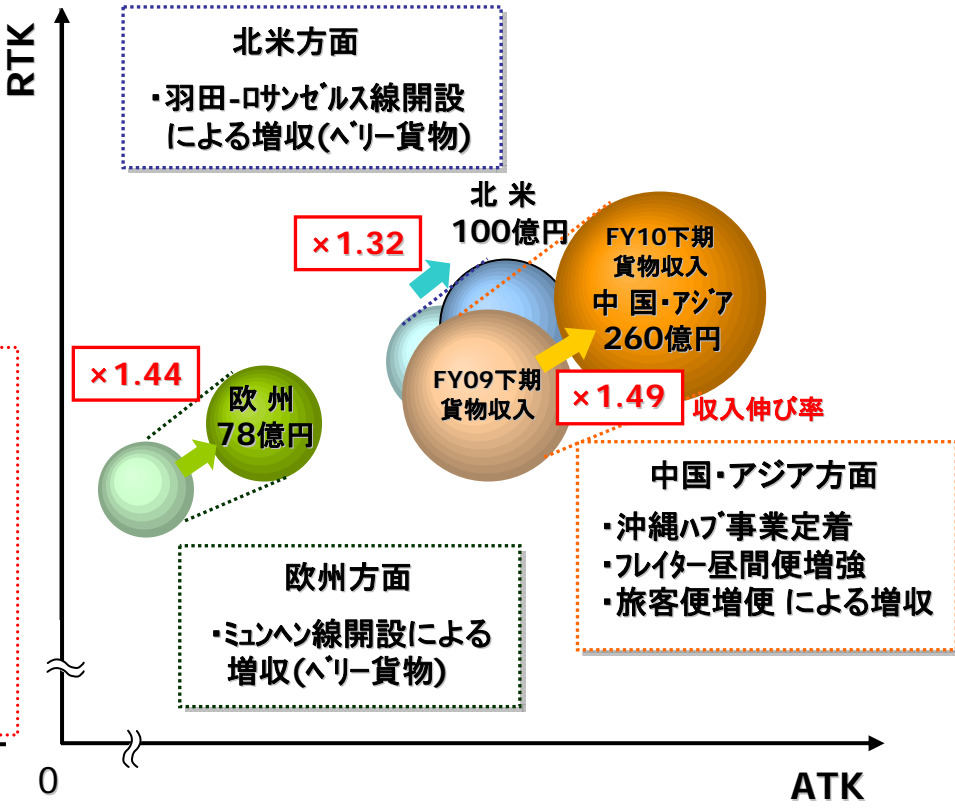
運賃改定による単価の改善と競争力強化による更なる重量獲得により増収

FY10 国際貨物事業修正計画 (前年比)

	上期実績	下期計画	通期計画
ATK	110.4	119.4	114.9
RTK	121.8	119.0	120.4
RT	145.6	121.2	132.0
単価	122.9	118.2	119.6

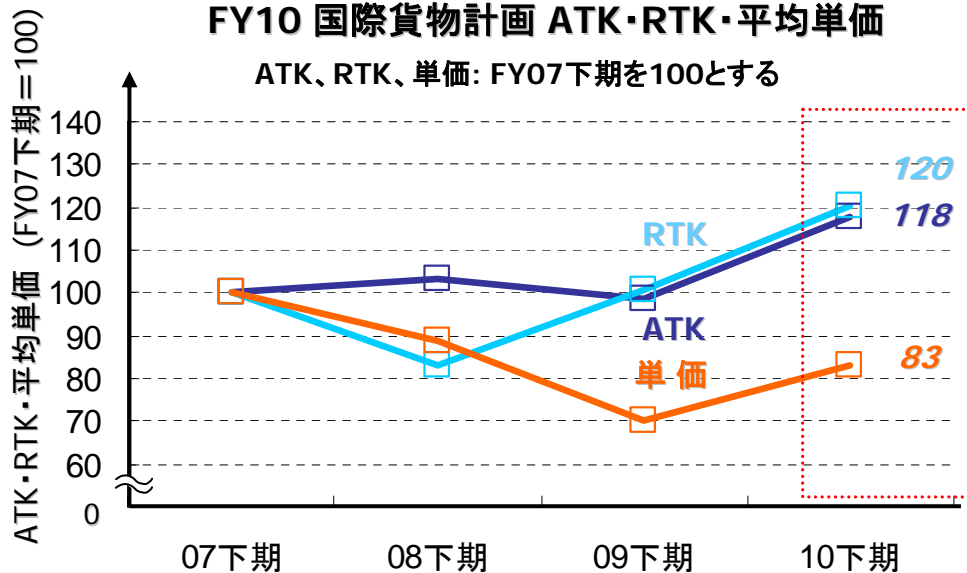
中国・アジア方面の需要獲得に加えて
旅客便へり-貨物の取り込みにより大幅増収

FY10下期 国際貨物 収入計画



FY10 国際貨物計画 ATK・RTK・平均単価

ATK、RTK、単価: FY07下期を100とする

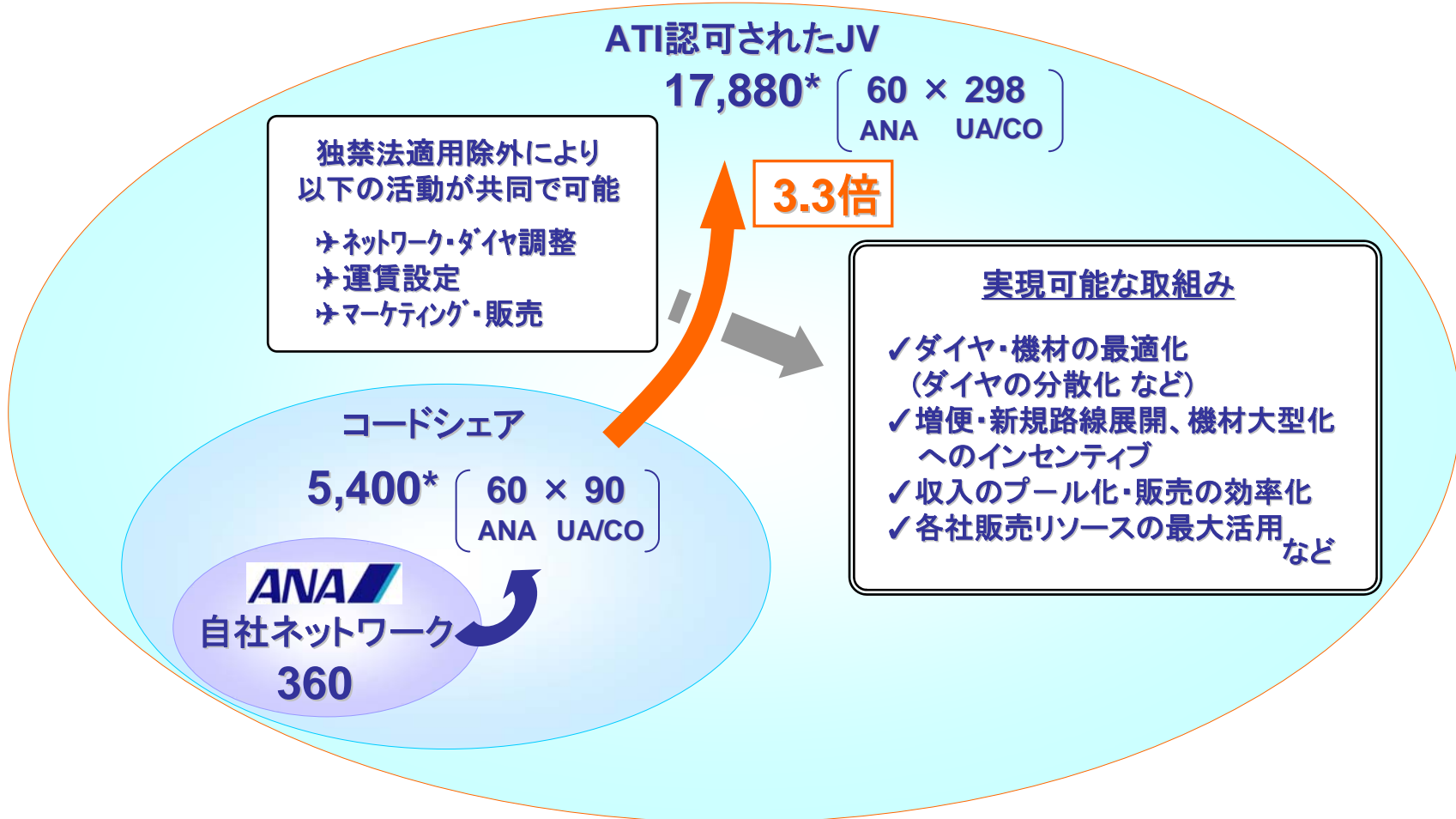


IV. トピックス - ATI認可後のJV (Joint Venture) 実施に向けて

ユナイテッド航空、コンチネンタル航空とのJVにより最大規模のネットワーク、販売体制を実現

アジア・太平洋路線ネットワーク規模 (イメージ)

*実現可能な出発地/到着地の組合せ数 (国内含むアジア対象空港×米州対象空港)

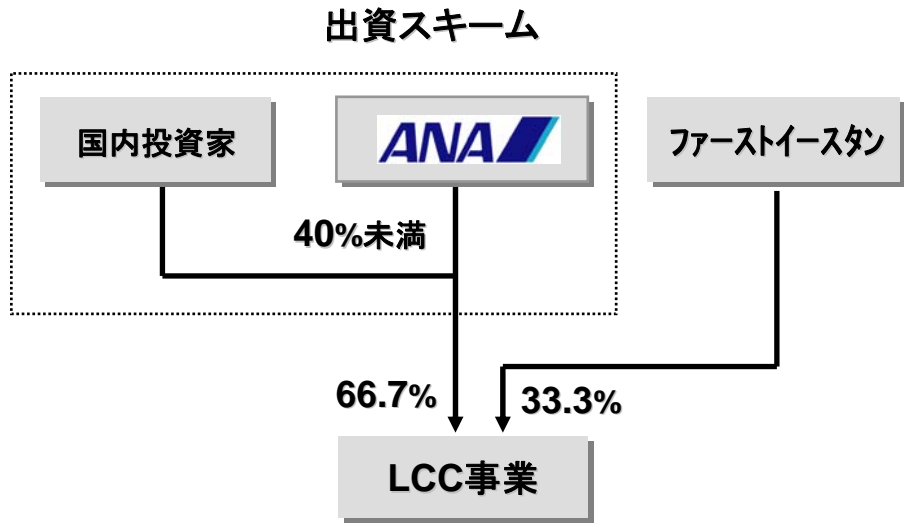


IV. トピックス - LCC事業 ~ 設立に向けて

年末の設立に向けて着々と準備

LCC事業の概要

事業内容: 航空運送事業 (国内線・国際線)
 拠点空港: 関西国際空港
 スケジュール: 2010年末: 新会社設立予定
 2011年度下期: 新会社運航開始予定



目指すLCC事業: 機材の高稼働と従業員の高生産性を実現する事業構造

機材: 180席程度の小型ジェットの単一機種
 1年以内には5機程度、5年目までに15~20機体制

運航: 徹底した単純繰り返しパターンによる低コスト運航

サービス: 徹底したシンプルサービス、システムによる自動化対応

営業: 最大座席数を配置した機材の導入と選択性サービスの有料化

その他: LCC環境整備の最大活用と従業員の高生産性の実現

V. 最後に

2010年の最終黒字化、2011年以降の安定化に向けて着実に前進



ANAグループの目指すもの

グループ経営理念

— 私たちのコミットメント —
 ANAグループは、「安心」と「信頼」を基礎に

- 価値ある時間と空間を創造します
- いつも身近な存在であり続けます
- 世界の人々に「夢」と「感動」を届けます

グループ安全理念

安全は経営の基盤であり社会への責務である。
 私たちはお互いの理解と信頼の
 確かなしくみで安全を高めていきます

私たちは一人ひとりの責任ある
 誠実な行動により安全を追求します

グループ経営ビジョン

ANAグループは、国内および日本とアジア
 そして世界の旅客・貨物輸送を担う
 航空事業を中核としてアジアを
 代表する企業グループを目指す。

▶▶ アジアを代表するとは、

- クオリティで一番
- 顧客満足で一番
- 価値創造で一番

となることである。

ご清聴ありがとうございました。

Thank you.

当資料はホームページでもご覧いただけます。

This material is available on our website.

<http://www.ana.co.jp>

[日本語] IR情報 → 決算・IR情報



全日本空輸株式会社 IR推進室

電話番号 03(6735)1030(代) FAX 03(6735)1185 メールアドレス ir@ana.co.jp